

日 時：平成 30 年 5 月 13 日（日） 12 時 30 分～14 時 30 分

場 所：日本教育会館 中会議室

司 会：湯浅庶務担当理事

書 記：丸山 優（会員），黄 永河（事務センター）

【開会宣言】

湯浅庶務担当理事より代議員 92 名中，出席者 36 名（最終 37 名），委任状提出 47 名であり，出席者と委任状提出者を合わせて過半数となったため，社員総会が開催されることが宣言された。また，定款により，議長は堀内理事長となることが説明された。

【開会の辞】

堀内理事長より開会の挨拶があった。また，本議事録の署名理事は北川理事に依頼することが説明され，承認された。

【報告事項】

1. 理事会報告（資料1）

正木副理事長より資料に基づき，活動内容の詳細について報告された。

2. 総務（庶務，広報）報告（資料1，別紙資料）

正木副理事長より資料に基づき，研究倫理審査委員会，倫理・コンプライアンス委員会の整備や役員選挙を行った旨が報告された。また，三重野理事より別紙資料に基づき，研究倫理審査委員会の審査の流れと規程について説明があった。審査の流れにおいて，「理事長より申請者へ審査結果の通知」後の「変更の勧告（要再申請）」から「異議申し立て」にのみ矢印されているが，「理事会にて審議」の方にも矢印をしてはどうかという意見があり，調整することとした。

北川理事より総務の活動の詳細ならびに庶務報告として会員数が 2,219 名であること，前年度より 161 名増加したことが報告された。また，広報の活動の詳細が報告された。

3. 委員会報告（資料2）

1) 編集委員会

鈴木編集委員長より資料に基づき報告された。

- ・第22巻の発行：第2号の特集は，日本老年看護学会第22回学術集会を特集企画とし8編を掲載した。
- ・第23巻の発行：第1号は，前号からの継続査読を加えた結果8本の論文が掲載予定である。また特集については，①「老人看護専門看護師の活動紹介：6つの役割について」と②「高齢者の服薬管理」を掲載予定である。第21巻第2号～第22巻第2号の論文種類別の採択率は，原著27%，資料51%，実践報告100%，総説0%となり，全体の採択率（44%）は上がったが，原著の採択率が低かった旨が報告された。
- ・2017年8月よりJ-STAGEでの公開を行った。インターネット上での学会誌の閲覧は，Medical Finder（医学書院），メディカルオンライン（メテオ），J-STAGEとも発行後1年後公開となっている。

- ・投稿規程に電子化の公開や投稿時に著者資格および著作権譲渡承諾書を提出することを加えた。ことが報告された。

- ・学会誌の論文投稿の締切日について報告された。

2) 研究・教育活動推進委員会

亀井研究・教育活動推進委員長より資料に基づき報告された。

- ・研究活動の推進: 委員会を4回開催した。前年度に作成したクリニカルクエスチョンに従って、Cochran データベースの検索、およびシステマティックレビュー、およびメタアナリシス文献を検索した結果を各回に報告し、Minds によるフォーマットを使用した高齢者看護ケアガイドライン作成のための報告書を作成した。

- ・教育活動の推進: 8月の第3回ガイドライン作成セミナーでは、「看護ケアガイドライン作成のための系統的レビューを学ぼう」と題して大田えりか氏(聖路加国際大学大学院教授)から講義を受け、48名(会員24名、非会員13名、当委員会委員10名、協力者1名)の参加があった。

3) 老年看護政策検討委員会

酒井老年看護政策検討委員長より資料に基づき報告された。平成28年度・29年度期活動目標は、平成30年度の医療・介護保険ダブル改訂に向け、要望書及び提案書を作成し提出することであり、下記の目標を設定した。

① 急性期病院の認知症サポートチーム加算Ⅰ、Ⅱの評価と改訂

- ・平成28年度に実施した「認知症ケア加算2算定申請をした病院の看護管理者からみた認知症看護研修の効果」「認知症ケア加算1、2を算定した病院における老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師が認識している認知症ケアの実態と変化」の2つの調査を報告書にまとめ、「老年看護学」第22巻第2号の委員会報告として掲載し、その後日本老年看護学会ホームページ上に公表した。

- ・医学書院「看護管理」2018年2月号において、特集「認知症ケアプロセスの可視化；認知症ケア加算がもたらした成果と展望」を企画し、認知症ケア加算の効果評価における課題も含め、公表した。

② 介護保険・医療保険に提出する新たな要望事項の作成

- ・平成30年度要望書は、介護報酬1、診療報酬1の2件提出したが採択に至らなかった。

- ・平成30年度技術提案書は、日本在宅ケア学会と協働で1件提出し、C103在宅酸素療法指導管理料の遠隔モニタリング加算として、採択された。

- ・「認知症ケアにおける外来看護師の効果的介入ガイドラインの策定」をテーマとする平成29年度看保連研究助成金を獲得した。計画通り研究を進行し、2018年4月27日に看保連総会において助成事業研究発表を行った。

4) 国際交流委員会

山本国際交流委員長より資料に基づき報告された。

- ・活動方針: 老年看護学に関する国内外の関係機関との交流や連携を推進する。

- ・平成28年度の活動については、第22回学術集会の委員会企画(世界の高齢化社会に寄与する老年看護学を目指す～国際学会に行ってみよう～)を企画、実施した。

- ・平成29年度の活動については、第23回学術集会における委員会企画(東アジアの老年看護学の実践・教育・政策の融合を目指す; 中国・韓国・日本で学びあおう!)を企画し実施する予定である。また今後の活動として、①全米老年看護学会での発表、②IAGG国際学会の日本誘致の企画委員会への参加を予定している。

5) 研究論文表彰選考委員会

真田研究論文表彰選考委員長に代わり、鈴木理事より資料に基づき報告された。

- ・研究論文表彰選考にあたりオンライン審査システムを用いて投票を行った（投票率 66.3%）。
- ・投票結果をもとに委員会で審議し、理事会にて 2 論文が承認された。受賞者には来年度の学術集会で発表をしてもらう予定である。

6) 生涯学習支援委員会

大塚生涯学習支援委員長より資料に基づき報告された。

- ・平成 29 年度は、以下 3 つの研修事業を実施し、延べ 710 名（会員 142 名、非会員 568 名）の参加者があった。
- ・認知症看護対応力向上研修：平成 28 年 4 月の診療報酬改定による「認知症ケア加算 2」の算出に伴う研修として全国 7 か所にて実施し、延べ 523 名の参加者があった。
- ・生涯学習支援研修実践編：①ELNEC-JG を日本緩和医療学会との共催で 2 回実施し、113 名の参加者があった。②災害支援検討委員会との共催で実施し、17 名の参加者があった。
- ・生涯学習支援研修基礎編：1 年ぶりに基礎編研修を再開した。大阪（関西会場）で実施し 57 名の参加者があった。
- ・平成 25～27 年度生涯学習支援研修による老年看護技術のサブテキスト（知識のまとめ）を作成した。ホームページの会員専用サイトに掲載予定である。
- ・生涯学習支援マップを見直し、基礎編は多様な研修が企画できるように、実践編は演習を含めた研修パッケージによる研修として実施できるよう修正を行った。

7) 災害支援検討委員会

太田災害支援検討委員長に代わり、湯浅理事より資料に基づき報告された。

- ・第 22 回学術集会委員会企画にて「災害時のリハビリテーション支援活動—JRAT の活動を通して」をテーマとし、里宇明元氏（慶應義塾大学医学部）を講師に招き講演会を実施した。
- ・昨年度に引き続き「災害時の避難所における認知症高齢者のケア」をテーマとする生涯学習支援研修を実施した。
- ・災害看護研修の教材コンテンツを作成し、第 23 回学術集会にて発表予定である。
- ・「大規模自然災害時の高齢者支援ガイド」の充実と、災害時の情報共有方法を継続して検討している。
- ・ADI 国際会議にてポスター発表（H29 年 4 月京都国際会館）、世界仙台 2017 防災フォーラム：防災ダボス会議@仙台 2017（H29 年 11 月仙台国際センター）にて口頭発表を行った。
- ・調査研究班による文献レビュー「老年看護領域に関わる災害看護研究の現状と今後の課題」結果の報告として、『老年看護学』第 23 巻第 1 号で委員会報告として報告予定である。

8) 専門看護師・認定看護師活動推進委員会

百瀬専門看護師・認定看護師活動推進委員長より資料に基づき報告された。

- ・平成 29 年度は、第 22 回学術集会における委員会企画として、「最期まで輝く人生を支援するために他分野との共有から生まれる当事者主体の高齢者看護」をテーマとしたワークショップを開催した。DCN・GCNS 以外に、がん看護専門看護師、集中ケア認定看護師に登壇して頂き、約 170 名の参加者があった。
- ・老人看護専門看護師・認知症看護認定看護師向け研修会「認知症ケアの質向上を目指す—認知症ケア加算を通し、GCNS/DCN の活動を考える Part2」を開催した。参加人数は 145 名（DCN119 名、GCNS 26 名）であった。アンケート結果は学会 HP へ掲載、詳細は「老年看

護学会誌」へ投稿予定である。

- ・平成30年度は、第23回学術集会における委員会企画を準備しており、特定医行為の実践を含む看護の役割拡大が高齢者ケアの質向上にどのような影響や波及効果をもたらすのかについて、正確な情報を共有した上で、専門看護師・認定看護師の教育、役割及び活動の方向性を考える機会とするためのシンポジウムを企画している。

4. 役員（理事・監事）選挙結果報告（資料3）

亀井選挙管理委員長より資料に基づき、投票率は83.7%であり、13名の理事と2名の監事が当選された旨が報告された。

5. 学術集会について

1) 第23回学術集会

中島洋子学術集会長より、2018（平成30）年6月23日（土）～24日（日）に久留米シティプラザで開催される学術集会の進捗状況の報告があった。

2) 第24回学術集会

大塚眞理子学術集会長より、2019（平成31）年6月7日（金）～8日（土）に仙台国際センターにて開催予定である旨が報告され、特別講演、教育講演、シンポジウムなどのプログラムを計画している旨が説明された。

3) 第25回学術集会

原祥子学術集会長より、第25回学術集会は、島根市民会館にて2020（平成32）年6月20日（土）～21日（日）に行う旨が報告された。

以上について、質問等なく、上記の報告は承認された。

【審議事項】

1. 理事・監事の承認（資料3）

堀内理事長より資料に基づき、理事会で検討した結果、理事長は大塚眞理子理事、副理事長は正木治恵理事となった旨が報告された。また、坂井志麻代議員、松岡千代代議員、三重野英子代議員、綿貫成明代議員が理事会にて指名理事として指名された旨が報告された。拍手多数にて指名理事4名を含む理事・監事が承認された。

2. 平成29年度決算（案）・監査報告について（資料4, 5）

山田会計担当理事より資料に基づき平成29年度決算が報告された。泉監事より資料に基づき平成29年度会計監査を行った結果、適正かつ正確であったが、予算の執行時期に検討を要するものがみられたことから、今後は計画的な執行を希望する旨が報告された。出席者の挙手多数にて平成29年度決算（案）は承認された。

3. 平成30年度事業計画（案）について（資料6-1）

大塚新理事長より資料に基づき、事業計画について報告された。

4. 平成 30 年度予算（案）について（資料 7）

山田会計担当理事より資料に基づき説明され、倫理・コンプライアンス委員会、研究倫理審査委員会の予算が追加された旨が説明された。説明に関して質問等なく、出席者の挙手多数にて平成 30 年度事業計画（案）と平成 30 年度予算（案）とは承認された。

5. 平成 31 年度事業計画基本方針（案）について（資料 6-2）

大塚新理事長より資料に基づき、平成 30 年の事業を継続し、これに加え、代議員および役員（理事・監事）選挙が追加された旨が説明された。説明に関して質問等なく、出席者の拍手多数にて平成 31 年度事業計画基本方針（案）は承認された。

【閉会の辞】

司会の湯浅理事より、閉会の辞が述べられた。

以上

理事長

印

署名理事

印